

第7回 持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会 議事概要

日時：令和5年6月1日（木）10:00～12:00

場所：中央合同庁舎第2号館12階 国際会議室

事務局からの資料説明後、有識者等から以下のような発言があった。

また、中間とりまとめ（案）の修正意見への対応については座長一任となり、今後の個別の取組については本検討会においてフォローアップを行うこととなった。

- 地方空港における外航の就航に向けた調整のため、各県の担当者と頻繁にやりとりをしている。この検討会を通じて、グラハンの現状や課題等が明らかになってきたこともあり、最近では課題解決策と一緒に考えてくれる地方自治体も増えてきた。本当にありがたいと思っている。
- 警備業界は、離職に採用が追いつかない状況が続いている。この検討会を通じて、保安検査員の処遇改善等に向けて国、有識者の先生、関係事業者の方々も本当に真剣に考えてくださっていることを、今働いている検査員にしっかりと伝えていきたい。
- 各主体の役割を整理した上で、その役割に応じた個別の取組を記載するというまとめ方は非常にわかりやすい。ここからは、各主体が各々で取り組んでいくことになるのだろうが、フォローアップはしっかりと行っていく必要がある。どのような方法で確認していくのかは、早めに検討しておくべき。
- 「視点1」の働き方について、「【誇りを持って】」という文言を入れたのはとても良いこと。先日、保安検査の終わりに「ありがとうございました」と伝えてみたところ、非常に驚かれたが、とても嬉しそうでもあった。現場で働いている方に「この仕事に意味がある」と実感させるような取組も重要だと思った。
- 賃上げを含む処遇改善の実現のため、受託料引き上げに向けた外航との交渉に取り組んでいる企業がしっかりと生き残れる業界にしていく必要がある。
また、どのようにして賃上げを達成していくのかが重要。業種によっては、「特定最低賃金」を設定しているものもあるので、その旨を本文に記載頂きたい。
- 労使間の対話については、企業レベルのものだけでなく、産業レベルのものもあると思われるので、その旨が分かるよう、本文の記載を工夫頂きたい。
- 地方部の方が都市部よりも人材確保に要するコストがかかっているの、それをしっかり

反映した受託料を設定していかなければならない。

- 現場業務に加えて新人教育等も行っている中間管理職に負担が集中している現状に危機感をもっている。新人教育等を進めて負担の分散化を進めるとともに、中間管理職への手当をしっかりと支給していくことが重要。
- 本邦エアラインは黒字化しているが、中小のグラハン企業の多くは未だ赤字が続いている。また、コロナ禍でかなりの負債を抱えてしまっているという課題もある。
- 本文の「視点3」関係について、「旅客は女性、ランプは男性」といった偏見を排除する旨が記載されているが、「ランプで活躍している女性の様子を業界としてアピールしていく」など、どのように取り組むのかについても書き加えた方が良いのではないかと。
- グラハンについて、特定技能制度の活用が地方部でも進んでいくよう、東京や大阪で採用している企業の実態について伝えるなどの取組を進めていきたい。
- 本文の「視点5・6」関係について、地方自治体の支援のあり方の見直しについて記載されている。これは非常に大事なポイントなので、誤解なく伝わるよう、丁寧に記載していく必要がある。

具体的には、「インバウンドの推進には、空港の機能維持が不可欠であること」、「空港の機能維持のためには、空港業務が重要な役割を果たしていること」についても加筆した方が、「空港業務支援を誘致支援の一部として位置付けること」が何故必要なのか、分かりやすく伝わるのではないかと。
- 空港について、これまで地方自治体は、「観光拠点」として捉えてきたが、今回のとりまとめ案でも言及しているとおり、地元住民の雇用の場となる「地場産業」という面もある。空港で長期的に働き続けることができる環境整備が進めば、人口流出への対応にもなるので、地方自治体が空港支援を行う理屈にもなるかもしれない。
- 地方自治体から話を聞くと、空港に対して何ができるのか悩んでいるようだった。その際、他の地方自治体の先行事例があれば取り組みやすいという話もあったので、国がベストプラクティスを収集し、横展開を図っていくことは効果的であると思われる。
- 空港会社・空港ビル会社の関与も重要。実際に現場をみると、グラハンの生産性向上につながりづらいレイアウトになっている空港もある。空港会社等と一緒に知恵を出し合って、連携して対応していきたい。

- グラハンの業界団体については、8月の設立を目指し、関係企業間の調整を前向きに進めている。詰めていかなければいけない点はまだまだたくさん残っているが、トライ&エラーを繰り返しながら、少しずつでも前進していきたいと思っている。

- まずは個社が努力し、個社単体ではできないようなことに関して、業界団体が声を吸い上げて改善できるように取り組む。その上で、個社や業界団体だけでは解決できない課題について、関係者と共に取り組んでいくというのが、あるべき姿だと思っている。
このような姿に近づいていけるよう、個社や関係者が一緒になって、業界団体を育てていければいいと思っている。

以上